

# みわたそう世界のこと

遠藤 芳郎

平塚市立豊田小学校

実践教科：総合

時間数：4時間

対象学年：小学5年生

対象人数：51名

## カリキュラム

### <実践の目的>

- ・カンボジアの生活や文化について思いを巡らすことで、自分たちから遠く離れた国にも魅力的な生活や文化があることを知る。そして、遠く離れた国の生活や文化に興味関心を持つことで、自分たちの周りの社会だけでなく、広く世界に関わろうとする姿勢を育むこと。
- ・カンボジアの中にもいろいろな文化が存在することに気がつき、物事を多面的に捉えることの重要性に気がつくこと。

## 授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	「カンボジアってどんな国？」 ねらい：導入のためカンボジアを知り興味を持たせる。	(1) 写真を見て、グループで何の写真か話し合う。 (2) 写真の国はどこの国か予想をする。 (3) 地図帳を見ながらヒントをもとにどこの国か考える。 (4) 自分たちの予想を発表して、写真の国の答えを聞く。	(1) 地図帳 (2) カンボジアの写真
2	「カンボジアをもっと知ろう」 ねらい：カンボジアの生活や文化を知る。	(1) 写真を見て、グループで何の写真か話し合う。 (2) 写真は何の写真か予想をする。 (3) 自分たちの予想を発表して、何の写真か答えを聞く。 (4) ビデオや雑貨、説明を見たり聞いたりして、カンボジアの様子を知る。	(1) 研修で撮った写真 (2) 研修で収集した雑貨 (3) 研修で撮った映像 (4) プロジェクター (5) パソコン (6) 地球儀
3	「カンボジアの文化にふれよう」 ねらい：カンボジアの言葉にふれたり遊びを実際にやってみる。	(1) カンボジアの文字、あいさつ、通貨などについて知る。 (2) カンボジアの学生の映像をみる。 (3) 実際に遊んでいる様子をみながらカンボジアの遊びを知る。 (4) カンボジアの遊びを実際にやってみる。	(1) 研修で撮った映像 (2) 研修で収集した雑貨
4	「いろいろなカンボジアを知ろう」	(1) グループごとに16枚の写真を 見て、4枚ずつの組を4つづく。 る。	(1) 研修で撮った写真 (2) 研修で収集した雑貨

	<p>ねらい：今までとは、違うカンボジアに触れ、カンボジアにもいろいろな面があることを知る。</p>	<p>(2) 写真を見て、グループでどこの写真か予想をする。  (3) 自分たちの予想を発表して、写真の答えを聞く。  (4) 雑貨や説明を見たり聞いたりしながらカンボジアの違う一面を知る。</p>	<p>(3) パソコン  (4) プロジェクター</p>
--	--	---	----------------------------------

### 授業の詳細

1 時限目：「カンボジアってどんな国？」～カンボジアの言葉にふれたり遊びを実際にやってみる～  
アンコールワットやカンボジアの高床式の住居などの写真を各グループに6枚ほど提示した。子どもたちはその写真が何の写真かをグループで話し合いながら、写真の国を予想した。また、地図帳をもとに「その国には海があります。」「その国の面積は日本の半分位です。」「アンコールワットという有名なお寺があります。」などのヒントも出しながら考えさせた。

子どもたちは「この写真は何の写真だろう?」「大きなお寺かな?」「これは田んぼかな?」など興味津々で写真を見て話し合っていた。また、地図帳を見ながらヒントが一つ出ること、自分たちの予想に自信を持ち、「海に面していて、お寺のある国はきっと だよ。」「日本の面積半分位の国はきっと だよ。」など話し合い、とても盛り上がっていた。

子どもたちはどの子も積極的に活動していた。地図帳を片手に写真を見ながらどこの国が自分なりに予想しグループの他の子どもたちと話し合いをしていた。そして、今回の写真の国がカンボジアとわかると「やっぱり。」「そうなんだ。」「カンボジアにアンコールワットがあるんだ。」などの声が聞こえた。最後に、先生がカンボジアに訪問することを話すと「どんな食べ物があるか調べてきてほしい。」「カンボジアの学校について見てきてほしい。」などの声が聞こえた。



2 時限目：「カンボジアの文化にふれよう」～カンボジアの生活や文化を知る～

今回の実践は、前時から期間がかなりあいてしまったため、まず、子どもたちに今回の学習のテーマが異国の文化や社会について学習していくことを話した。次に、グループごとにA・B・C・D4種類のシートに各4枚ずつ(合計16枚)の写真が載ったシートを渡し、そのシートの写真がそれぞれ何をしている様子かどこの場所かをグループで話し合い予想させた。そして、それぞれに予想を発表させた。

Aのシートは稲抜きの写真だった。子どもたちは学校田やパケツ稲で田植えや稲刈りの経験はあ

るが、畑の苗床から稲を抜く稲抜きはやったことがない。答えを解説するとき、カンボジアの少女の仕事姿をビデオで紹介するとその仕事の手際の良さに驚きを見せていた。次のBのシートはクメール伝統織物研究所の写真。クメール織物のすばらしさを伝えたかった。研究所の織師の方がデザイン画を見ただけでデザイン通りに実物を織ることができることを伝えるととても驚いていた。研究所で買ってきたクロマーを見せると興味津々で触っていた。また、ここでは小さな子どもも仕事場にいることができる保育所の役割もあることを紹介した。次のCのシートは、朝の屋台の写真だった。カンボジアの食文化に興味をもってほしくて、写真を見せながら実際の味などを具体的に話すと「食べたい。」という声が聞こえた。また、朝から外でご飯を食べる習慣にとっても驚いていた。Dのシートは、水上学校の写真だった。湖の上に浮かぶ船の学校という話をすると、とても驚いていた。雨期に入ると湖が大きくなり、住む場所が変わり、それに合わせて学校も動くことを話すと子どもたちはたいへん感心していた。



#### 児童の感想

水上学校は少しあこがれた。学校が船なんて、すごいと思った。  
カンボジアにはいろいろな甘い果物や珍しい食べ物があるんだなと思いました。  
カンボジアは日本と同じ所もあればちがうところもあっておもしろかった。  
カンボジアの人たちはすごく工夫して生活していることがわかった。  
カンボジアには、私から見ると、とてもめずらしい物がありました。  
日本にないものがあってすごく興味深かったです。それに田植えの女の子もすごかったです。  
一番ビックリしたのは、水上学校です。季節ごとに場所が変わるなんてすごい。  
行ってみたい。あと、仕事をしている女の子がすごかったです。

3時限目：「カンボジアをもっと知ろう」～カンボジアの言葉にふれたり遊びを実際にやってみる～

まず、カンボジアのあいさつを教えた。クメール文字とそれにカタカナで読み仮名をつけてクイズ形式で紹介した。最初に、チョムリアップソー「はじめまして」と画用紙に書いたものをみせるとクメール文字の形にとっても驚いていた。「音符みたいだ。」とか「よくそんな難しい字が書けるなあ。」などの声が聞かれた。他に、「ありがとう」の意味のオークンや「1, 2, 3」ムオーイ、ピー、パイを紹介した。

次に、カンボジア紙幣の実物をみせた。子ども達は、見たことがない紙幣に「これは本当のお金なの?」「日本でいうといくら位の価値なんだろう?」と初めて見る紙幣に興味深々であった。リエルという単位や4000リエルで約1ドルという話をするるとリエルの安さに驚いていた。

そして、最後にカンボジアの遊びを紹介した。まず、はじめに写真をみせてカンボジアでも日本のアルプス一万尺をできる学生がいることを紹介すると、子どもたちは「そうなんだ。」と感心をしていた。そして、カンボジアの学生達に教えてもらった「ルサイとトンピャン」(日本語で言うと竹と竹の子という意味)という遊びを写真やビデオを使って説明した。そして、みんなで実際にやってみた。はじめは、なかなかルールがわからなく戸惑った子どもたちも次第にルールに慣れるとすすんで歌ったりしゃがんだりしてゲームを楽しむことができた。



#### 児童の感想

カンボジアの人々は、とてもむずかしい字を書いているんだなと思った。お金はすごく安いお金でいろいろな物が買えるのですごいと思いました。

カンボジアの遊びでルサイとトンピャンという遊びを知りました。とてもおもしろかったです。

カンボジアの遊びは楽しくて今度は他の遊びもしてみたい。

カンボジアではこんな遊びがあるのかと思いました。けっこうむずかしそうだったしすごいきんちょうしました。でも、もう一回やってみたいです。

カンボジアでもアルプス一万尺をやっているなんてびっくりしました。

遊びは今度日本の歌じゃなくてカンボジアの歌を歌いたいです。クメール語を覚えてお母さんに問題を出したいです。

4時限目：「いろいろなカンボジアを知ろう」～今まで知ったカンボジアとは、違うカンボジアにふれ、カンボジアにもいろいろな面があることを知る～

2時限目と同様に、グループごとにA・B・C・D4種類のシートを配る。今回も写真は16枚用意したが、各シートには最初に一枚だけ写真を載せ、残りの写真をどの写真と同じ場所の写真か予想させ、シートにのりで貼らせた。そして、そのシートの写真がそれぞれ何をしている様子かどの場所かをグループで話し合い予想させ発表させた。

Aのシートはデパートの写真だった。日用品などが並んだ売り場やゲームセンター、アイスクリーム屋などの写真を見せた。子どもたちは自分たちの家の近くのデパートとさほど変わらない風景に驚いていた。次のBのシートは日本料理店の写真。看板や食事の写真を紹介した。看板には漢字で「比摩人」と書かれていた。また、並んだ鮭定食をみるとなんで日本料理があるのだろうと不思議に感じていた。次のCのシートは、ロシアンマーケットの写真だった。マーケットで売られていたこしょうや小物入れやTシャツを実物をみせて説明した。Tシャツが日本円で100円程度で買えるとその安さに驚いていた。また、マーケットの奥の食料品のえびやカニや魚なども写真で紹介した。DのシートはFCCレストランの写真だった。ピザや唐揚げなどの写真を見せると「おいしそう。」「カンボジアにもレストランがあるんだ。」と意外な様子だった。そして、これら以外にも日本のような本屋やコンビニの写真を紹介した。

そして、最後にこの日授業を見学に来ていた、一緒に海外研修に参加したJICA横浜のスタッフの方々にもカンボジアについてのいろいろな質問を直接聞いてもらうことができた。



#### 児童の感想

ゲームセンターもあってカンボジアもすすんでいるんだなと思いました。  
なぜ、洋食や和食のお店があるのか知りたい。  
前と風景が全然違ってびっくりしました。カンボジアに日本のお店があるなんて知りませんでした。  
カンボジアにはお金持ちの人なんていないと思っていました。びっくりしました。  
カンボジアにはレストラン・デパート・和食店があることをはじめて知りました。  
カンボジアと日本はものの値段や売っている物などはちがうけど、田舎と都会の風景があることは同じだったのが良かった。

## 成果と課題

今回の実践は異国の生活や文化について思いを巡らすことで、自分たちから遠く離れた国にも魅力的な生活や文化があることを知ってもらおうと授業を計画した。実は春先に授業を計画した時は地雷をテーマにカンボジアについて学習を深めていく予定であった。しかし、事前研修などを進めていく中で小学校段階の子どもたちには異なる文化の魅力についてまず知ってもらい、興味を持たせることが第一であると考えた。なので、あえて子どもたちにはカンボジアの負のイメージ、地雷や内戦の歴史などについては紹介しなかった。

実践を通して、「カンボジアに行ってみよう。」「カンボジアの果物を食べてみたい。」「他のカンボジアの遊びをしてみたい。」「カンボジアの言葉をもっと知りたい」など関心を持たせることができた。また、カンボジアの都会的な部分も紹介することによって一面的なカンボジアだけでなく多面的なカンボジアもみせることができた。

しかし、計画的に授業を準備しておけば、カンボジア社会をもっと人の顔が見え、声が聞こえる形で紹介できたかもしれない。そうできれば、さらに身近にカンボジアのことを考え興味を持たせることができたと思う。

この実践も4時間の後に、カンボジアの文化をもっと知ろうというテーマで在日のカンボジア人の方をゲストに招いて、カンボジア料理を作って食べようという授業も考えていた。そして、そこからそのゲストの方に日本に来たいきさつなどを話してもらい顔の見える形でカンボジアと子どもたちをつないでいきたいと考えていた。（授業時数の関係で今年度は実施が無理そうです。）

今回の実践は世界とのつながりのはじまりだと考え、これからも異国に興味を持ち世界をみわたす目を子どもたちに育てていきたい。

